

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1997. 10

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 162

日本野鳥の会 埼玉県支部

識別は楽しい♥

海老原美夫（浦和市）

【PART 1】 タシギとオオジシギの場合

今年の2月初め、茨城県古河市に住んでいる埼玉県支部会員のKKさんから手紙が届いた。

本誌昨年12月号の拙文「タシギとオオジシギの識別」を読んで、古河市内の蓮田で越冬しているタシギの群れの近くに不思議なジシギがいると、ビデオプリントを送って下さったのだ。

KKさんの疑問点は、胸が茶褐色で斑は目立たず、腹部から下尾筒あたりまで茶褐色、頭・背・翼あたりはくすんだ感じで、タシギとは違うのではないか、ということだが、送られたプリントと手紙の記述で私が気になったのは、

- 1, 下の肩羽が小さくて後縁が白く見えること。
 - 2, 頭側線が茶色で白い斑点が混じっていること。
 - 3, 飛んだ時の次列風切後縁の白が細いと報告されていること。
- の3点だ。

1はタシギ以外のジシギ類、2と3はハリオシギの特徴と言われているからだ。

早速次の休日、2月11日に案内してもらった。場所は古河駅に近い住宅地と農地が接するあたりの、生活排水などが流れ込んでいる湿った水田。

確かに1羽だけ他のタシギとは行動も違い、水中ではなく畦の上でミミズ類を採餌し

ている。これもジシギ類の特徴だが……

寒さをこらえて日没近くまでビデオカメラを回し、特に尾羽を広げたところを撮影できないかとねばり、後日映像を入念にチェックした。

その結果は、

- 1, くちばしは基部が特に太くなく、長さは長い。
- 2, 下の肩羽の黒い模様は矢尻形ではない。
- 3, 下の肩羽は、小さいというより、長さが不揃い。これは、換羽中のためかもしれない。
- 4, 飛んだ時の次列風切後縁の白は太くて明瞭。

- 5, 尾羽が翼より長く出ている（ハリオシギの場合、尾は短い）。

そして決定的なのは、

- 6, 広げた尾羽のクローズアップ映像が明らかにタシギのパターン。

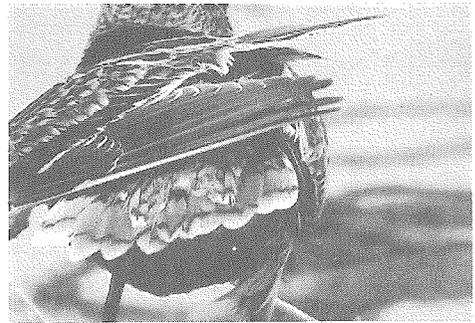
私はこの個体はタシギと同定した。

しかし、頭側線の色と斑点、下の肩羽後縁の細かい白、採餌行動などは疑問として残り、今のところはタシギでもそういうこともあるのでは、としか言いようがないが、私としては新たな知見を得たとも言える。

ああでもない、こうでもないと考えながらビデオカメラを回している時も、その後のああだこうだも含めて、識別って、本当に楽しい。



頭側線・顔・くちばし



尾羽

[PART II] コサギとカラシラサギの場合

8月2日(土)、暑さを避けて谷津干潟の日陰でのんびりと、渡り始めのシギ・チドリ類を楽しんでいたら、通りがかった人が、むこうにカラシラサギがいるという。

毎年のようにこの時期ここではカラシラサギの情報が飛びかうが、それまで私が見た限りでは、全部コサギだった。

くちばしの根元が上下とも黄色、脚の黒色が薄いというだけでカラシラサギと言うのだが、コサギが成長する段階でそういう特徴を見せるのは普通。

今回も、あれがそうだと指さされた個体は、やはり成長途中のコサギにしか見えない。それでも、ある信頼すべきバーダーが自信をこめて同定しているというので、レンズを向けてみた。

やがて、その個体が近くに寄って来て、目先の色があざやかな黄緑色であることが見えた時、James HancockとJames Kushlanが世界のサギ類を纏めた『THE HERONS HANDBOOK』の中のカラシラサギの非繁殖羽についての記述「目先はyellowish-green」を思い出し、ことによったら、と考え出した。

そうしてみると、

- 1, 冠羽が太くて短い。
- 2, 採餌の行動が他のコサギより活発。
- 3, 他のコサギと追ったり追われたりがはげしい。
- 4, くちばしの先半分は黒というより薄黒。
- 5, 脚も足指も緑色を帯びている。
- 6, コサギの大きさは個体差があるが、その内最も大きいタイプとほぼ同大。

などという特徴も見えて来た。

これらはコサギでもあり得る特徴なのだが、カラシラサギの特徴とも矛盾しない。

翌3日(日)もビデオ撮影に時間をかけ、念の為、その近くにいるコサギ達の目先の色をかたっぱしからチェックしたが、他には鮮やかな黄緑色のコサギはいない。私の記憶でも、目先が鮮やかな黄緑色のコサギを見た覚えがない。

その後、『THE HERONS HANDBOOK』やその他の図鑑類のコサギの目先の色についての記



目先は鮮やかな黄緑色だが

述を探し回ったが、おおむね青灰色や緑灰色。鮮やかな黄緑色という記述は見つからなかった。この時点で疑問点を含みながら、私の判断は、かなりカラシラサギの方に傾いたが……、何日かして、しばらく読んでいなかった高野伸二さんの『野鳥識別ハンドブック』が目について、そうそうこの本もあったと、何気なくコサギの項を広げてみると、なんと「目先の裸出部は緑黄色または淡青灰色」とあるではないか。

えっ、ウッソォ。目先が緑黄色のコサギもいるとすると、あの個体がコサギではないとする根拠は何もなくなってしまわない。

8月23日(日)、神奈川県海老名市の水田にオオジシギを見に出かけ、ついでにコサギの目先の色を調べてみた。5羽の内1羽が少し黄緑色に、少なくとも1羽がかなり鮮やかな黄緑色に見えた。

君子は豹変する！ 既にライフリストに1種追加してしまった人には申し訳ないが、あれはやはり成長途中のコサギだったのだ。そう判断すると、すっと無理なく胸に落ちた。

私は、この「すっと胸に落ちる感覚」というのを大切にしている。その後も多くの人たちがカラシラサギと判断しているという話は聞いているが、ここでは書き切れない体型・脚の長さ・くちばしの形なども検討し直した結果として、私はコサギで決定!! 珍鳥に関する海老原の法則「珍鳥が普通種か迷う時は、普通種の方だ」も、よみがえった。

逆転に次ぐ逆転。世間様にあえて自分の浅学ぶりをさらしつつ、人によって様々に意見が分かれることも含めて、識別は本当に楽しいと、やはり私は申し述べたいのだ。

生き甲斐のバードカービング 浅岡太郎（所沢市）

東京世田谷から所沢の長男宅に夫婦で世話になるようになり、昭和64年から埼玉県支部に移りました。

『しらこぼと』で催しのご案内をいただいても、長時間歩くのが難しい身で、参加できないのが残念です。

同封した写真（右の2枚）は、バードカービングを研究して作ったものの一部です。ひとつつ仕上げるに、半月から1ヶ月かかります。世田谷では毎年12月に障害者の作品展示会を催しますので、出品させて貰った時のもので、皆さん喜んでくださいます、生き甲斐となりました。

今の所沢の家の隣の栗林では、スズメ、カラス、キジバト、ムクドリ等と、キツツキ類を2～3回見ました。昭和25年に住むようになった世田谷の方は、一面の麦畑の中の都営住宅で、野鳥の種類が多かったようですが、東京でも所沢でも、来る野鳥には強弱があり、最後はキジバトが主体になるようです。

鳥達にも自然のルールにもいろいろ考えさせられます。

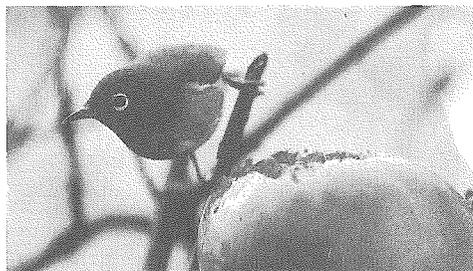
自宅の庭で……

沖典明（川口市）

自宅の木に柿を刺して見ていると、ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ（写真下）などがきます。

一番強いのがムクドリで、ヒヨドリはムクドリに追われ、メジロはムクドリ、ヒヨドリの合間に急いで柿をついばんでいます。

メジロは文字どおり、目の線が白く愛らしく見えますが、素顔は意外ときつく、野で生きるたくましさを感じさせます。



両神山頂の思い出

陶山和良（浦和市）

カラコルム登山神奈川隊6人死亡のニュースをテレビで見て、びっくりした。

6月14日の早朝。海拔1,723mの狭い両神山頂に一人立ち、頭上すれすれに大声で鳴きながら飛んでいくホトトギスに心を奪われていた私の眼前に急に現れた一人の山男。「あの鳥はプッポウソウですか？」 その方が、神奈川山岳会のメンバーで、「8月には広島氏を隊長に、ヒマラヤに行く」と聞いていたからだ。

私の手帳にメモした彼の名前は、隊員の中から見つけ出すことはできなかったのほっとして、冷やりとした静寂な山頂での、無造作におにぎりや味噌をつけた竹輪を手渡してくれた彼の山談議と、私の鳥談議をしばし振り返った。

M新聞のローカル記事に誘われて、「仏法僧の声」を聞きに行ったはずの両神山荘の一夜は見事に肩すかしをくわされたが、両神山は、良い思い出を私に残してくれた。

この夏、3つの話

樋口信之（騎西町）

[その1]

8月14日の夕方5時頃、騎西町の工業団地造成地の荒れ地の中、エノコログサや背の高いヨモギが生い茂る中から、我が駄犬が、なんとチュウジシギらしき鳥を追い出してくれたのです。

キューキュー（鳥の声を文字で書くのは難しいのですが）と4声くらい鳴いて、低くまっすぐに、少し山型に飛んで、下に降りるかなと思ったら急に高く舞い上がり遠くに行っていました。低く飛んだ距離は100m位でした。

えっ、埼玉のこんな所にもいるんだと思ひ、良く観察したかったのに残念でした。

（今回みたいなのは、自分では見た中に入りません。納得してないからです。）

[その2]

8月16日、騎西町の休耕田の中に、ムナグロ6、アオアシシギ1、タカブシギ2、イソシギ6、コチドリ20±で、その中に、ハジロコチドリが1羽いました。図鑑に出てのと同じ夏羽でした。

黒が濃くて、アイリングが無くて、まるでコチドリが覆面をしているみたいでした。黄色のくちばしですぐ分かると思いました。

家に帰って埼玉県野鳥チェックリスト1996年版を見ると、なんと載っていないのです。いそいでビデオを持って行くと、やっぱりもういませんでした。あ～あ、でした。

[その3]

8月17日、会社に行く途中、騎西町か菖蒲町か鴻巣市の境あたりの休耕田の中に、コサギが1羽、動けずにうずくまっていました。まわりにいたサギ達も、なかなか飛び立たないのです。その中にもう1羽、飛べないコサギがいました。体中がふるえて、腰くだけ状態で、動けないのです。

近くの用水路に2羽、やはり腰くだけ状態で動けないサギがいました。

会社に行く時間を気にしてその場を離れ、途中上尾市の原市交番に寄ってその事情を話し、管轄の警察の方に連絡してもらい、保護



（ヨシゴイ）（外岡たけの）

を頼みました。コサギのいた場所と、桶川の中村動物病院（県指定の傷病野生鳥獣保護診療機関）を教えて、会社に向かったのです。

夜8時頃、帰る途中にその場所を通ってみると、コサギがいません。良かったと思ひ家に着くと、久喜の警察から2度電話があり、場所が分からなかったとのことで、保護できなかったようです。残念でした。

次の日、その場所に行ってみると、少し離れたところで1羽死んでいました。他の3羽はどうしたのか、不思議でなりません。

はみ出し 行事案内

新潟県・福島潟、佐潟探鳥会（要予約）

期日：11月22日（土）～23日（日）

集合：午前8時 JR大宮駅西口前

交通：往復とも貸切バスを利用

費用：20,000円の予定（バス代、一泊2食付き宿泊費、保険料、懇親会費を含む）万一過不足が生じた場合は当日精算

定員：20名（先着順、県支部会員優先）

担当：中島（康）、櫻庭、新堂

申し込み：通常葉書に住所、氏名、年齢、性別、郵便番号を明記して、中島康夫（ ）まで。

見どころ：福島潟、佐潟を巡りヒシクイ、マガン、ワシタカ類を見ましよう。ビギナーからベテラン迄それぞれに楽しめます。

注意：宿は男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。

旧武蔵野操車場跡地のチョウゲンボウ

山部直喜（三郷市）

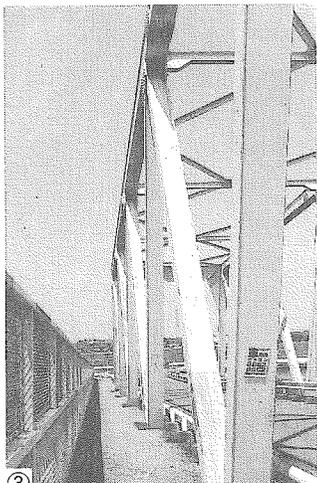
私は通勤の際、少し遠回りをして、旧武蔵野操車場跡地に架かる2本の跨線橋を利用している。チョウゲンボウに会えることが多いからだ。1本はJ R武蔵野線新三郷駅の跨線橋（写真①）で、もう一本はそこから約2km離れたところにある。

私がこの付近で初めてチョウゲンボウを観察したのは、1992年1月22日、新三郷駅の跨線橋を徒歩で渡っていたときだ。そして同年5月23日、この跨線橋に下向きに開けられている穴の一つに、成鳥がスズメ、イワツバメ、小さなネズミを繰り返し運び込むのを観察した。さらに同年6月6日、巣立ち間もないと思われる幼鳥2羽を観察し、繁殖を確認できた。

以来、新三郷駅の跨線橋では、毎年のように1番いが営巣し、巣立ちの時期には、幼鳥2～3羽を観察している。

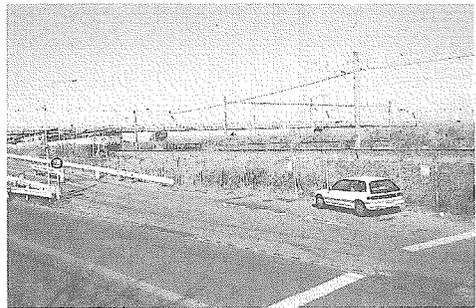
もう一つの跨線橋での繁殖（写真②）に気が付いたのは1994年である。巣は、新三郷駅の場合と同様、下向きに開けられている長径約30cm、短径約13cmの長円形の穴である。

繁殖記録は、新三郷駅よりこちらの方が多く、1994年から1997年までに確実に繁殖を確認した穴は6カ所を数える。それ以外に、同じ期間内で、

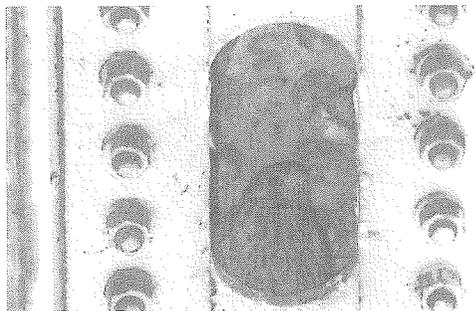


③

穴の下の鉄柱にチョウゲンボウの糞と思われる汚れがあって、かつ、ペリットも穴の下にあった箇所は11カ所を記録した。ただし、この11カ所は、歩道から見上げる事



① J R武蔵野線新三郷駅の跨線橋



② 跨線橋での繁殖

ができる位置（写真③）にある穴の場合であって、線路から見上げる位置にあるものは含まれていない（旧武蔵野操車場跡地はフェンスで囲まれており、入って観察できない）。

また、ここでは毎年、2～4番いが同時に繁殖活動に入っている。今年は少なくとも3番いが営巣し、巣立ちが重なったためか6月23日には、同時に幼鳥を含む12個体を確認した。

なお、この付近の観察を続けているFさんからは、1983年には旧武蔵野操車場跡地でチョウゲンボウの繁殖を観察している、と教えてもらったことがある。

フェンスで囲まれ、長年放置されたままになっていた跡地は、今、まさに野鳥のサンクチェアリ。しかし、1997年7月4日付の朝日新聞によれば、チョウゲンボウにとって、天国のようなこの地も、近々、市街地に生まれ変わることが決まっている。

浦和市寺山 ▷6月13日、アオゲラ1羽観察。▷8月6日夜、アオバズクの声が聞こえた(堤茂利)。

岩槻市槻ノ森公園南側 ▷8月12日、コムクドリ19羽、カッコウ1羽、ゴイサギ5羽、オオヨシキリ2羽(中村榮男)。

東松山市都幾川 ▷8月17日、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カワセミ(後藤康夫・喜久子)。

川本町荒川明戸堰上流 ▷8月17日、イソシギに混じってキアシシギ1羽、キセキレイ1羽。トビとハシボソガラスが同じ枯れ木の上下にとまっていた。▷8月23日、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ。サギ類が多かった。他に、イソシギ10羽、クサシギ1羽、イカルチドリ10羽、コチドリ(後藤康夫・喜久子)。

東秩父村定峰峠 ▷8月20日、頂上付近でトビ成鳥2羽と若鳥2羽が旋回していた。他にカケス3羽、エナガ、ヒガラ(後藤康夫・喜久子)。

鴻巣市大間1丁目 ▷8月23日午後4時30分頃、サシバ4羽が旋回しながら上昇して行った(榎本みち子、菜摘野)。

小川町槻川 ▷8月24日、割谷橋付近でヤマセミの鳴き声が聞こえた。島根橋下のヨシ原でオオヨシキリ1羽。あの騒々しさはどこへやら(後藤康夫・喜久子)。

川越市伊佐沼 ▷8月24日、アマサギ2羽、ヨシゴイ1羽、バン成鳥2羽と若鳥4羽(後藤康夫・喜久子)。

浦和市上野田 ▷8月25日、野田農協付近でヤマガラスの声が聞こえた。▷9月10日、野

田農協上空でオオタカ1羽が北の方に飛んだ(藤原寛治)。

吉川町中曽根地区 ▷8月30日、チョウゲンボウ2羽が上空を飛び、水辺ではアオアシシギ2羽が採餌していた(山部直喜)。

本庄市利根川坂東大橋下流 ▷8月31日、ノビタキ1羽、ショウドウツバメ約10羽(新井巖)。

浦和市下大久保鴨川排水機場 ▷9月6日、カルガモの群れの中に、コガモ1羽とマガモ♂エクリプス1羽(海老原美夫)。

越谷市御殿町元荒川沿いの林 ▷9月12日、通りかかって、鳴き声に気がついて立ち止まると、50羽以上のコムクドリが次々と枝渡りをしていた(海老原美夫)。

神奈川県海老名市 ▷県外ですが、海老名市役所近くの休耕田で、9月初めから、タシギ、オオジシギ、チュウジシギ、ハリオンギのジシギ類4種が観察されています。9月いっぱい期待できるとのこと。この4種の識別は普通の図鑑だけでは無理でしょうが、いろいろなデータを仕入れて見ると、大変勉強になります。9月7日と9月10日には、同じところでエリマキシギの♂♀各1羽がすぐ足下にまで寄ってきて採餌していました(海老原美夫)。



ハリオンギ(海老原美夫)

表紙の写真

ルリカケス(カラス科)

奄美大島では、夜遅くまで、そして朝は日の出1時間前には飛び出し、鳥の撮影をしてきました。

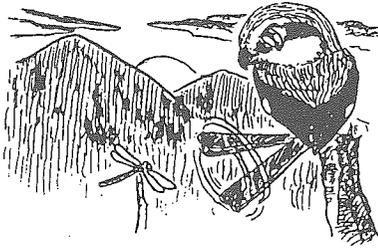
幸いにして、奄美の野鳥写真家、『バーダー』に今年1年間鳥の写真を連載している常田守さんに一晩案内していただくことも

に、野鳥情報を教えていただいたので、その場所を重点に回りました。

鳥を見ることはできても、撮影することはなかなか難しく、思うようにまわりません。近いうちにまた出かけるつもりでいます。

佐藤 進(大宮市)

行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

◆10月4日(土)北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会は9月号を御覧下さい。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月5日(日)

集合：午前8時30分 北本自然観察公園駐車場。または午前8時15分JR高崎線北本駅改札口、集合後タクシーで現地へ。リーダーの指示で分乗してください。

担当：岡安、内藤、榎本、立岩、永野(安)、永野(京)、川那部、島田、大坂、高見どころ：秋の深まりと共に、石戸の森にもアカゲラ、アオゲラ、賑やかなカケスも戻ってきた。高い空にはオオタカの勇姿。帰途につくサシバも見られたらラッキーですね。

浦和市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：10月5日(日)

集合：午前9時 浦和市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前

交通：JR浦和駅西口バス1番乗場、大崎園芸植物園行き8:25発に乗車、念仏橋下車

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤、工藤、新堂、笠原、吉岡、若林、倉林

見どころ：風わたる秋の差間コースの期待は大・中・小・青…サギ類と、渡り途中の鳥達です。1989年以来ノビタキ、ツツドリの出現率は何と100%なのだ!

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月12日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：和田、森本、中島(章)、石井(博)、倉崎、松本、高橋

見どころ：最もさわやかな時期です。冬の鳥達もそろそろ集まり始めます。ここ数年の記録によるとヒタキ類には大いに期待が持てます。秋風と一緒にのんびりとススキ野を歩きましょう。

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：10月12日(日)

集合：午前8時 JR浦和駅西口バスロータリー、集合後バスで現地へ。

担当：福井(恒)、楠見、伊藤、小林(み)、倉林、笠原、嶋田、羽石

見どころ：秋も探まって遠くの秩父の山々から紅葉の便りがちらほら。ここ秋ヶ瀬に、冬鳥の第一便はもう届いたのだろうか。ヒタキの仲間はきっと来ているはずなんだけど、皆で探してみましょ。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：10月19日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺（周）、手塚、伊藤、笠原、若林、倉林、岡部、兼元、嶋田、森

見どころ：昨年は、初めてヨシゴイが出てくれた。一昨年はクイナ、カワセミ、カケスが出現した。今年はどうな鳥達が出てくれるだろうか。渡りの季節に相応しく、鳥だけでなくバードーも国外からやって来る。お楽しみに。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月25日（土）午後1時～2時頃
会場：支部事務局108号室

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会（要予約）

期日：10月25日～26日（日）
定員に達し締め切りました。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月26日（日）
集合：午前9時30分 県立さきたま資料館前レストハウス
交通：JR高崎線吹上駅北口より、東武バス行田車庫（佐間経由）行き8:55発に乗車、「産業道路」下車 徒歩約15分
担当：内藤、榎本、和田、立岩、石井（博）、松本、島田
見どころ：北の国から冬越しの鳥達が渡って来ています。「ヒーヒーヒーッッカッ」。人気の高いジョウビタキです。池にはカモの第一陣も来て、日に日に賑やかさを増していく、さきたまです。

川越市・西川越探鳥会

期日：10月26日（日）
集合：午前9時 JR川越線西川越駅前
交通：JR埼京線大宮8:34発に乗車、川越8:55発に乗り継ぎ
担当：佐久間、長谷部、藤掛、石井（幸）、小野、山本、中村（祐）、池永
見どころ：飛来したばかりのタゲリを見ましょう。貴公子然とした姿は何時見てもいいですね、県下の探鳥会では最も早

い時期に出現しています。水辺でサギ類、カモ、カワセミ等を楽しみながら、実りの秋、足元の野草の実も観てみましょう。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月1日（土）
集合：午前7時30分 丸山公園北口駐車場
交通：JR高崎線上尾駅西口5番バス乗り場より西上尾車庫行き（畔吉経由）7:07発にて「前原」下車 徒歩約10分

解散：午前11時頃
担当：櫻庭、阿久沢、丹、永野（安）、永野（京）、浅見（健）、浅見（徹）、大坂、高

見どころ：冷たい澄んだ空気の中、恒例の早朝探鳥会です。どんな冬鳥に会えるか楽しみです。朝の空気で身も心もリフレッシュしましょう。

長野県・白馬山麓探鳥会（要予約）

期日：11月8日（土）～9日（日）
集合：午前7時30分 JR高崎線本庄駅改札口付近
交通：往復とも27人乗り観光バスを利用
費用：19,000円の予定（バス代、一泊2食付き宿泊費、弁当代、保険料、懇親会費を含む）。万一過不足が生じた場合は当日精算。集合駅迄の交通費は各自負担
定員：22名（申込者多数の場合は抽選）
申し込み：往復葉書に住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記して、町田好一郎（ ）まで。

担当：町田、小池、岡安
見どころ：マミチャジナイ、ミヤマホオジロ、そして紅葉の白馬三山、モルゲンロートも期待！ 疲れたら温泉浴。会話が弾む車中では野鳥ビデオも勿論登場！
注意：宿は男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。

◆行事案内は5頁にも掲載しています。

行事報告

5月31日(土) 『しらこぼと』袋つめの会
ボランティア: 14人

荒木恒夫、江浪功、海老原敦子、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、篠原東彦、陶山和良、直井麻維子、中村治、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、森力

6月1日(日) 北本市 石戸宿
参加: 40人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ カルガモ トビ
チョウゲンボウ コジュケイ キジ クイナ バン
キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒ
バリ ツバメ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ
シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ
ラス (27種) 暑い日差しの下、アシ原のオオヨシ
キリの囀りがやけに大きく響く。高尾の池でカイ
ツブリとカルガモを観察していたら、カワセミが
ダイビングを披露してくれてリーダーは大助かり。
お目当てのヨシゴイは、散会後に学習センター2
階のロビーからよく見られた。(岡安征也)

6月8日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地
参加: 43人 天気: 曇

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ カルガモ
トビ ノスリ サシバ キジ コアジサシ キジ
バト カッコウ ヒバリ ツバメ モズ モズsp
コヨシキリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ
カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス (26種) トライアスロ
ン大会のため湖畔を避けて、通称タカミ台から旧
谷中村跡方面を探った。広大な葦原の中で、オオ
ヨシキリ、コヨシキリ、セッカの合唱を堪能。カ
ッコウもよく飛んだ。車椅子使用の方も交えて無
事終了。(新堂克浩)

6月8日(日) 熊谷市 大麻生
参加: 53人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサ

ギ カルガモ トビ チョウゲンボウ コジュケ
イ キジ バン コチドリ キジバト カッコウ
ホトトギス ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セ
グロセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキ
リ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ム
クドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラ
ス (30種) 朝からさわやかに晴れ渡る。「暑くな
るぞ」と思いきや、風が意外に涼しくしのぎやす
い。明戸堰に向かいながら、途中SLに手を振っ
たりと、のんびりお散歩探鳥も好いものだ。ササ
ゴイの姿は見られなかったが、鳥合わせの最後に
ホトトギスの声が間に合って、しめて30種確認と
なる。(榎本秀和)

6月15日(日) 坂戸市 高麗川
参加: 53人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサ
ギ カルガモ オオタカ キジ イカルチドリ
キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ
イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ
ヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ
シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29
種) 梅雨の最中だが傘は必要ない薄曇りの日。出
迎えたカルガモの親子連れを見て幼い姉弟が大喜
び。横でセッカが枝に止まる。期待したヤマセミ
の姿はないが、最後にアオサギとオオタカ2羽が
舞い、全員が確認して気も晴れた。(高草木泰行)

6月15日(日) 浦和市 三室地区
参加: 62人 天気: 晴

カワウ ゴイサギ カルガモ コジュケイ キジ
バン コチドリ キジバト カッコウ コゲラ
ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ
ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ
メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクド
リ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
(26種) 見沼たんぼに梅雨の季節がやってきた。
しかし、この日は暑い日差しの下での探鳥会。バン

やカルガモの子育てが見られず、残念だったけれど、斜面林の彼方からカッコウの声が聞こえ、ゴイスギやコチドリ、セッカの姿が見られて、楽しんだ。『しらこぼと』7月号、新座市の岩崎さんの“近頃とってもたのしいのです”の投書に応えるようリーダー一同頑張ります。(楠見邦博)

6月28日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 14人

新井良夫、荒木恒夫、海老原教子、海老原美夫、江浪功、大坂幸男、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、佐久間博文、篠原東彦、島田恵司、島田沙織里、藤掛保司、増尾隆

7月5日(土) 上尾市 八枝神社
参加: 36人 天気: 晴

アオバズク(1種)この日は越谷市で40.2°Cを記録するという今年最高の暑さ。幸いにも探鳥会は夕方6時からで、さわやかな風も吹き、あまり暑さは感じられなかった。このアオバズクを見る会は10年来続いている。大木のケヤキの巣穴に1羽、近くの枝に1羽の♂♀をじっくり見ることができ、7時15分過ぎには♂♀が飛び立ち、巣穴に居るヒナに餌を運ぶ姿をよく観察できた。(中島康夫)

7月13日(日) 熊谷市 大麻生
参加: 22人 天気: 小雨

カイツブリ カワウ ゴイスギ ダイサギ チュウサギ アオサギ カルガモ トビ コジュケイ キジ コチドリ イソシギ キジバト カッコウ アマツバメ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス(29種)雨が降ったり止んだりでリーダー泣かせの天気。途中でのコース変更も考えた上で決行。出発間もなく土手下の草原の枯れ木にオスのキジが登って悠然としているのが見られた。更に進んだところで、カッコウがそう遠くない木のてっぺんに飛来し、全員じっくり観察できた。明戸堰に着いた頃、雨粒が大きくなって来たので早目に解散。(和田康男)

7月20日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園
参加: 49人 天気: 晴

カイツブリ カルガモ オオタカ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ウグイス シジュウカラ

メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(15種)この日はあまり暑くなくて一安心。鳥は子育ての後か、少ない。それでもオオタカが2羽出現。ゆっくりと見られた。ここのもう一つの見もののチョウ(オオムラサキ)がなかなか出なかったが、最後に♀1がじっくり見られた。(佐久間博文)

7月20日(日) 浦和市 三室地区
参加: 49人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイスギ アオサギ カルガモ コジュケイ キジ バン コチドリ イソシギ キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(26種)見沼たんぼに、夏がやってきた。青々としたたんぼの上を、時折風が吹き抜けて行くが、また暑い日が照りつける。しかし、参加者は元気で、アオサギ、ゴイスギ、バン、コチドリを芝川で見て楽しんだ。三室の探鳥会が終わると、夏休みが始まる。そして、鳥仲間は、充電の季節を迎える。(楠見邦博)

7月26日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 19人

青山紘一、新井良夫、荒木恒夫、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、松堂忠義、松堂則子、直井麻維子、原島浩、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、森力、谷津弘子

7月27日(日) 狭山市 入間川
参加: 31人 天気: 晴

ゴイスギ ササゴイ コサギ カルガモ トビ キジ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ アオゲラ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(24種)鳥の少ない季節に川が増水し、おまけに風も強くては24種も仕方ない。稲荷山公園でも鳥の姿はあまり見られず、草花やキノコを見ながら終わることになった。ちなみに、この日見られた大きなキノコは“マントカラカサタケ”。主に落ち葉を分解している自然界の重要な仲間。(長谷部謙二)

連絡帳

●第1回理事会報告

現在、東京支部を除く関東ブロックの支部を代表する理事は、群馬県支部の浅川千佳夫氏がつとめています。同氏から、5月24日に開催された本年度第1回理事会に関する報告が届きました。

議題は平成8年度の事業報告・収支決算についてと、諫早湾問題について。諫早湾問題では、日本野鳥の会理事会としてのアピールを内閣総理大臣などに提出することが決議され、議題終了後の報告事項としては、各種顕彰及び顧問等に関する検討部会の答申、評議員制度改正に向けての経過報告及び意見交換の件、行政改革に関連しての要望書の提出などが報告されたとのことです。

●湿地調査ボランティア募集

埼玉県自然保護課から、「みんなでつくろう湿地マップ1000-湿地調査ボランティア募集-」の依頼が届きました。

平成6年度から実施している「豊かな湿地環境の保全・推進事業」の一環として、今年度は広く県民から湿地の情報を集めて、湿地マップを作りたいので、協力してほしいというものです。

調査期間は8月16日から10月15日までですが、依頼文書が当支部に届いたのは8月16日過ぎ。『しらこぼと』で広報できるのはこの10月号になってしまうということで、既に十分な調査期間は残されていませんが、県内にある湿地(湧水地・池沼・湿原・河川)を報告して下さる方は、同課まで調査に関するパンフレットと調査票をご請求ください。

〒336 浦和市長砂3-15-1 埼玉県環境生活部自然保護課企画調整係 TEL 048-830-3151

●県自然学習センター秋のイベント案内

里山を守ろうパート1 10月25日(土) 10:

00~15:00 自然を守る作業体験と竹細工

参加費無料 先着40名 10/1から受付

里山を守ろうパート2 11月22日(土) 10:

00~15:00 同作業体験と虫のすみか作り
参加費無料 先着40名 11/1から受付
初心者のためのバードウォッチング 11月14日(金) 10:00~12:00 双眼鏡の使い方とバードウォッチング 参加費100円 先着50名 11/1から受付 (以上3件要予約)
97「秋を彩る」写真展 10/1(水)~10/31(金) 9:00~17:00 入場無料
他に野あそび教室(10/11、11/8)、定例自然観察会(毎週土日祝日)などもあります。
問合せ・申込み先:〒364 北本市荒井5-200 埼玉県自然学習センター TEL 0485-93-2891

●10月の事務局 土曜と日曜の予定

- 4日(土) 普及部会議。
- 11日(土) 編集会議、研究部会議。
- 18日(土) 校正作業。
- 19日(日) 役員会議。
- 27日(土) 袋づめの会。

●会員数は

9月1日現在2,935人です。

活動報告

- 8月2日(土) 普及部会議。
- 8月9日(土) 第一次編集作業。
- 8月16日(土) 第二次編集作業。
- 8月17日(土) 役員会議(司会:新堂克浩、いさはやグッズの購入・リーダー研修会の準備・その他)。
- 8月23日(土) 9月号校正作業(工藤洋三・桜庭勇・海老原美夫)。
- 8月30日(土) リーダー研修会資料作成(事務局)。

編集後記

昔に比べてアオスジアゲハを多く見かけるような気がする。小学館『都会の生物』によると、幼虫の食樹クスノキが西日本から運び込まれて、緑化樹として多用されているかららしい。クスノキもアオスジアゲハも好きだが、増え方が少し気になる。(山部直喜)

『しらこぼと』1997年10月号(第162号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)